



つぎの授業で使える!

楽器活用例特集ページ

おんがくのひきだし

スズキの楽器をつかった音楽の授業・常時活動に使えるカンタンで楽しい、子どもたちの好奇心を高める“音楽づくりや音あそびなどの活用例・指導例”をご紹介します。

旋律
づくり

リズム
あそび

即興
演奏

音楽
づくり

音板がはずせる
あの楽器で♪

こんな時に使える
オススメ楽器♪



“おんがくのひきだし”は
スズキWEBサイトでも!



カタログ未掲載の活用例が盛りだくさん。
随時更新中ですので、ぜひご覧ください!

おんがくのひきだし

www.suzuki-music.co.jp

楽器の
種類を選んで
クリック

楽器活用法の
解説動画を掲載

つぎの授業で使える!

おんがくのひきだし

- いろいろな楽器で使える活用例 [一覧を見る](#)
- メロディオン活用例 [一覧を見る](#)
- トーンチャイム活用例 [一覧を見る](#)
- オルフ楽器活用例 [一覧を見る](#)
- バスウッドドラム活用例 [一覧を見る](#)
- 打楽器活用例 [一覧を見る](#)

新着活用例は
バナー表示を
しています



ドレミのあみだで“旋律”づくりを楽しもう！…………… P12

監修：日本女子大学 非常勤講師 中島 寿 先生



かんたん！すぐできる！ 着実に力がつくメロディオン指導案…………… P13

監修：東京女子体育短期大学 非常勤講師 千田 鉄男 先生



鍵盤ハーモニカは音楽づくりでも大活躍！…………… P14

監修：筑波大学附属小学校 平野 次郎 先生

- ① 低・中学年 音で「おはなし」しよう ② 高学年 和音の進行をもとに旋律をつくろう



手遊びをカスタネットで作ってみよう…………… P15

監修：フラワービート



全音音階に親しもう！…………… P16・P17

監修：筑波大学附属小学校 高倉 弘光 先生

- ① 1人1回鳴らそう ② トーンチャイムでこんにちは ③ 「ピッポッパ」で遊ぼう
④ 「全音音階」パスゲーム ⑤ パロディDE 全音音階



トーンチャイムで体感しながら楽しく学習…………… P18

監修：育英大学 名誉教授 熊木 眞見子 先生

- ① 低学年 トーンチャイムで協同する喜びを学ぶ ② 中学年 音楽づくりにトーンチャイム
③ 高学年 合唱やリコーダー演奏にトーンチャイムの和音伴奏を組み合わせる



バスブロックバーで音楽しよう！（バスブロックバー 活用例）…………… P19

監修：元 東京学芸大学 准教授 石上 則子 先生

- ① バスブロックバーの特長である低音を生かした伴奏遊び ② 即興的なリズムアンサンブル



ザイロホーンで わらべうたの伴奏遊びを楽しもう！（ザイロホーン 活用例）…………… P20・P21

監修：神戸市音楽教諭 西沢 久実 先生



子どもの表現活動によりそうバスウッドドラム…………… P23

監修：筑波大学附属小学校 平野 次郎 先生

- ① 低学年・音楽遊び 拍に合わせて ② 即興表現の支えとして活用しよう

いろいろな楽器で使える活用例

ドレミのあみだで

“旋律”づくりを楽しもう!

監修: 日本女子大学 非常勤講師 中島 寿 先生



メロディオン P28~

リコーダー P79

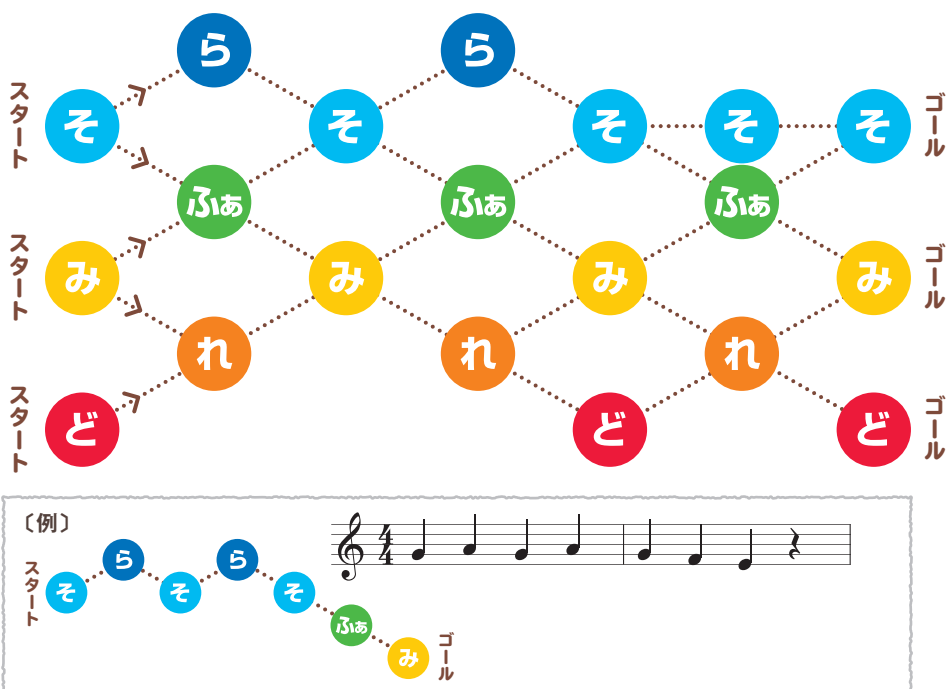
オルフ楽器 P116~

① 右の図を見ながらドレミを結んで旋律をつくりましょう。

メロディオンやリコーダーでもカントンに演奏できます。また、ザイロホーンやミニグロックンなどの、音板を自由に取り外せる、便利なオルフ楽器を使用してもよいでしょう。

ルール

- スタート(ど・み・そ)から始めてゴール(ど・み・そ)まで を結んで旋律をつくれます。
- 後ろへは戻らないで、全部で7つの音をつなぎましょう。
- 楽譜に書かないで、即興でつくるようにしましょう。



② みんなで演奏する旋律(きらきらぼしの初めの部分)の間に、つくった旋律を入れてロンドにしてみましょう。

〔例〕

発展 1

②の活動で「つくった旋律」を2人ずつ演奏してみましょう。すると、きれいな2重奏になります。3人でもできますのでいろいろ試してみてください。

〔例〕

発展 2

ここまでと同様に、登場する音を沖縄音階にすることで「沖縄風の旋律」をつくることもできます。

メロディオン活用例

メロディオン P28～



かんたん!すぐできる!

着実に力がつくメロディオン指導案

監修:東京女子体育短期大学 非常勤講師 千田 鉄男 先生

活動の目的

鍵盤配列を理解しましょう

まずはドの鍵盤を見つけましょう。2つの黒鍵の左がド。最終的には黒鍵を目印に指示されたドレミファソラシド全ての音(鍵盤)を見つけられるようにしましょう。この力は「鍵盤配列を理解する→音階構造を理解する→楽譜から音高が分かる」と繋がっていきます。

運指に慣れましょう

指使いを(なるべく)まもって弾きましょう。だんだん器用に指が動かせるようになります。

きれいな音で演奏しましょう

息のコントロールによる音色の違いを判断して、きれいな音で演奏する感覚を身につけましょう。

活動の流れ

本ページでは楽譜の一部を抜粋しています。お手本演奏、伴奏(カラオケ)、楽譜の各データは、スズキWebサイトの本活用例掲載ページよりダウンロードしてご使用いただけます。



- ①お手本演奏を聴く。
- ②先生が2小節を階名唱した後に、子どもたちがくり返す。
- ③先生が2小節を指番号唱した後に、子どもたちがくり返す。
- ④先生の階名唱/指番号唱に合わせてメロディオンを吹く。
- ⑤ピアノ伴奏(カラオケ)に合わせて吹く。
- ⑥オクターブ高いドレミをキレイな音で吹く。
- ⑦高/低のドレミを重ねて吹く。高低の違いを感じながら。

基本のルール

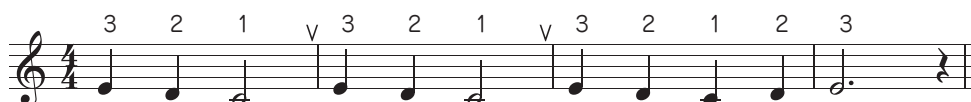
- ・親指から順に1～3の指番号です。
- ・ドは1、レは2、ミは3の指で鍵盤を押さえます。
- ・鍵盤にドレミのしるしはつけないように。
- ・息づかいを意識して美しい音で演奏。



あそぼう



ひとやすみ



おやすみなさい



POINT

喜びに満ちた活発な曲です。生き生きと、でも乱暴な音にならないよう演奏しましょう。

POINT

少しゆっくり目の短調の曲です。落ち着いた感じになるように「あそぼう」よりは弱めの息を使って吹きます。

POINT

ゆったりと温かみのある曲です。弱めの息を使って美しい音で練習しましょう。なめらかに次の音につながるよう意識して吹きます。

メロディオン活用例

メロディオン P28～

鍵盤ハーモニカは 音楽づくりでも大活躍！

監修：筑波大学附属小学校 平野 次郎 先生



鍵盤ハーモニカは主に1・2年生の器楽で活躍する楽器と言われています。しかし鍵盤ハーモニカは「すぐに音が出せる」・「幅広い音域」・「目で見て音を確認できる」・「和音も半音も自由自在」・「息づかいで強弱をつけやすい」といった特性があります。こういった特性を考えると活躍の場をここだけに留めておくのはもったいないですね。まずは音楽づくりの学習で活用してみませんか？



活用例
1

低・中学年

音で「おはなし」しよう

使う音を決めて問いかけたり答えたりする

- ① 基本のルールを確認する。
- ② 2人1組になり、役割「問い」と「答え」を決める。
- ③ 音でおはなしする。

POINT

先生はウッドブロックやバスウッドドラムなどでテンポをキープします。



ウッドブロック



バスウッドドラム

基本のルール

使う音と役割



リズム 自由に 拍子 4/4拍子 小節 2小節ずつ

(例1)



(例2)



活用例
2

高学年

和音の進行をもとに旋律をつくろう

和音の進行を感じ取って仲間とともに4小節の旋律をつくる

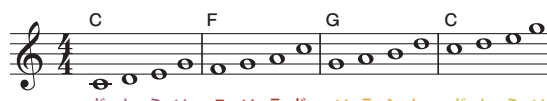
- ① 基本のルールを確認する。
- ② 4人1組になり、役割を決め使う音を確認する。
- ③ 1人1小節の旋律を考える。(Aさんならド・レ・ミ・ソの音を使う)
- ④ つくった旋律を4人でつなげる。
- ⑤ 4人で聴き合ったあとに直したり変化をつける。
- ⑥ グループ毎に発表しお互いに聴き合う。

POINT

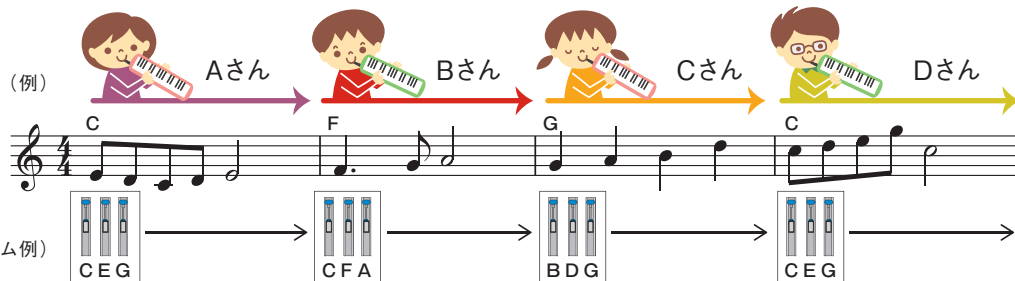
ここではⅠ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅰの和音進行を扱います。発表時は別グループがトーンチャイムで和音を鳴らす活動も取り入れるとよいでしょう。

基本のルール

使う音と役割



リズム 自由に 拍子 4/4拍子 小節 1小節ずつ



(トーンチャイム例)



C E G



C F A



B D G



C E G

カスタネット活用例

カスタネット P134



手遊びをカスタネットでやってみよう

監修：フラワービート

活動の目的

- ・手遊びをカスタネットに置き換えることで楽器を演奏することのハードルを下げる。
- ・息を合わせて演奏することでリズム感を養う。

活動の流れ

- ① 大きさ（音程）の違う3つのカスタネット、チッチSC-311・タッタSC-321・トットSC-331をそれぞれ持ちます。
- ② 隣の人の手が届く位置に座ります。二人の場合は向かい合ひましょう。
- ③ 自分の担当する音程のカスタネットをリズム譜通りにたたいていきましょう。

POINT

- ・カスタネットの音の高さの違いを感じましょう。
- ・口ずさみながら手遊びをしている時のようにたたきましょう。
- ・実演動画をご覧ください。



▲ 実演動画

アルプス一万尺

せっせっせ～の

よい よい よい

アルプス いちまんじゃく こやりのうーえで

アルペン おどりを さあ おどり ましよ

2回ずつ自分のと右の人のカスタネットをたたく

1回ずつ自分のと右の人のカスタネットをたたく

自分のカスタネットをたたく

へい!

いろいろな楽器で使える活用例

メロディオン活用例

小物打楽器活用例

トーンチャイム活用例

オルフ楽器活用例

バスウッドドラム活用例

トーンチャイム活用例

全音音階に親しもう！

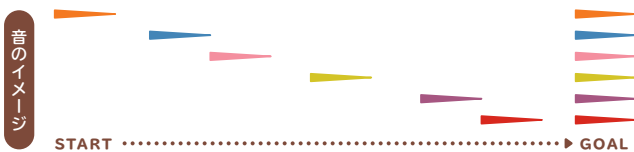
監修：筑波大学附属小学校 高倉 弘光 先生

「全音音階」とは、ド・レ・ミ・ファ $\sharp$ ・ソ $\sharp$ ・ラ $\sharp$ …のように、となり合う音と音との音程がすべて「全音」(長2度)でできている音階のことで「宇宙」「霧の中」「ふわふわ感」「雲の上を歩く感じ」などのイメージをもたせやすいのが特徴です。トーンチャイムを使うと、「全音音階」がもつ特徴がより強調され、より魅力的に感じることができます。ここでは「全音音階」の魅力を楽しく感じることができる音楽ゲームを紹介します。



活用例
1

1人1回鳴らそう [人数:5~8人程度]



- ①横1列に並びます。1人1人が「全音音階」の構成音のどれかを持ちます。
- ②端の人から1人1回、順に音を鳴らします。ただし、音を鳴らすタイミングは自由です。前の人が鳴らしたら、すぐに鳴らしても良いし、しばらく待ってから鳴らしてもよいのです。
- ③最後の人が鳴らし終わったら、全員で息を合わせて一斉に一回だけ鳴らしましょう。

活用例
2

トーンチャイムでこんにちは [人数:5~8人程度]

- ①広いスペースにバラバラになって立ちます。1人1人が「全音音階」の構成音のどれかを持ちます。
- ②[スタート]の合図で一斉に歩き始めます。偶然にすれちがう人と、息を合わせて同時に1回音を鳴らします。(偶然ですので、教室のあちこちでランダムに「全音音階」の和音が響くことになります。)
- ③1人4回鳴らしたら、その場に立ち止まりましょう。

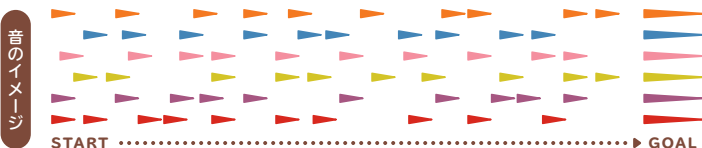


活用例
3

「ピッポッパ」で遊ぼう [人数:5～8人程度]



1人10回鳴らす



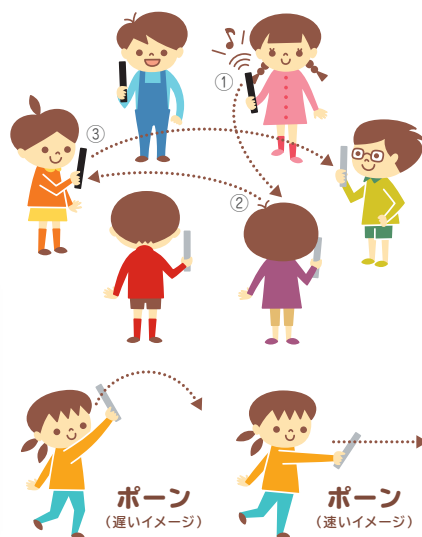
- 横1列に並びます。1人1人が「全音音階」の構成音のどれかを持ちます。
- [スタート]の合図で、全員が一斉に好きなタイミングで10回音を鳴らします。
ただし、鳴らし方は次の通り。
★音を鳴らしてすぐに、トーンチャイムを持っている逆の手のひらで、トーンチャイムの頭部を押さえ、音を止めます。
- 全員が10回ずつ鳴らし終わり、シーンとなったら、
息をあわせて同時に1回鳴らして音楽を終わらせましょう。



活用例
4

「全音音階」パスゲーム [人数:6～8人程度]

- 輪をつくって立ちます(内側向き)。1人1人が「全音音階」の構成音のどれかを持ちます。
- 最初の1人を決め、その人が輪の中の誰かに向けて、音を鳴らします。トーンチャイムを向けるなどして、誰に音をパスしたのかわかるようにしましょう。音をパスされた人は、また別の人に向けて音をパスします。音を鳴らし終わった人は、立てひざになって、まだ音を出していない人と区別できるようにしましょう。
- 慣れてきたら、目には見えない音がどの程度の速さで相手に届くのかをトーンチャイムを振りかざすジェスチャーで表現したりすると面白いでしょう。



活用例
5

パロディDE 全音音階

「かえるの合唱」「キラキラ星」など、簡単に演奏できる曲を「全音音階」に変身させてみましょう。どんな感じになるでしょうか…。



「かえるの合唱」
全音音階バージョン

ド	レ	ミ	ファ#	ミ	レ	ド	え
ミ	ファ#	ソ#	ラ#	ソ#	ファ#	ミ	え
ド	え	ド	え	ド	え	ド	え
ド	レ	ミ	ファ#	ミ	レ	ド	え

カノンにしても
おもしろい
ですよ

トーンチャイム活用例

トーンチャイムで 体感しながら楽しく学習



監修：育英大学 名誉教授 熊木 眞見子 先生

活用例 1

低学年 トーンチャイムで協同する喜びを学ぶ

「全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、協同する喜びを感じる」

トーンチャイムの最大の特長は、一人一人がそれぞれの音を担当し、みんなで一つの音楽を創り上げるという点にあります。

「きらきら星」を演奏してみましょう。

- ①「きらきら星」を全員でドレミで歌った後、「使われている音はいくつかな？何の音かな？」と子どもたちに質問して「ド」「レ」「ミ」「ファ」「ソ」「ラ」の6音であることを確認します。
- ②子どもたちの中から6人選びます。
1人1音ずつトーンチャイムを持ち、担当音を記した紙を首からさげ順に横に並んで立ちます。
- ③先生は並んでいる子どもたちの前に立ち、「ド、ド、ソ、ラ、ラ、ソ…」と、「きらきら星」の歌の通りにそれぞれの音を担当する子どもを指さしていき、指された子はトーンチャイムを鳴らしていきます。



活用例 2

中学年 音楽づくりにトーンチャイム

「様々な音を探したり音をつくったりして音の面白さに気付く」

トーンチャイムを鳴らしたまま持続させる音と、止める音を組み合わせる面白い活動ができます。

トーンチャイムの響く音と響かない音でリレーしてみましょう。

- ①子どもたちは1本ずつ好きな音のトーンチャイムを選び、全員で中を向いた輪になって立ちます。
- ②トーンチャイムを鳴らしてすぐに逆の手の平でトーンチャイムの先端に触れると「コン」と音が止まります。この音の止め方を練習しましょう。
- ③次に自分が鳴らす音を②のように止めるのか、響かせたままにするのかを決めます。ただし前の人が響く音だったら次の人はその響きがほとんど消えるまで待ってから自分の音を鳴らします。前の人が響かない音だったら、次の人はすぐに自分の音を鳴らします。つまり、前の人がどちらの鳴らし方をするかによって、次の人が鳴らすタイミングが変わるということです。
- ④最初に鳴らす子を決め、その子から順番に1回ずつトーンチャイムを鳴らしていきましょう。響く音ばかり続けば、ゆっくりと順番が回っていきませんが、響かない音が続けばどんどん回っていくことになります。どうなるかわからないところが面白いのです。



一人ずつ順番に

活用例 3

高学年 合唱やリコーダー演奏にトーンチャイムの和音伴奏を組み合わせる

「音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取る」

トーンチャイムで和音伴奏してみましょう。トーンチャイムは音が個々に分かれているため、和音の構成を演奏の中で実感できます。

「静かにねむれ」をトーンチャイムの和音伴奏で歌ってみましょう。

- ①「静かにねむれ」の和音進行はI-IV-I-V…となっています。それぞれの和音を構成している音を黒板に書き出しましょう。
- ②子どもたちはそれぞれの担当音を記した紙を首からさげ、順に横に並びます。
- ③「静かにねむれ」をみんなで歌うリコーダーで演奏します。和音を鳴らすタイミングに合わせ、「I」なら黒板に書かれた「I」を、「V」なら「V」を先生が棒で指し示します。トーンチャイムの奏者は先生がいずれかの和音を指し示すと同時に、その和音を鳴らします。



Iの和音＝ド・ミ・ソ
IVの和音＝ド・ファ・ラ
Vの和音＝シ・レ・ソ
Vの7の和音＝シ・ファ・ソ

バスブロックバー活用例

バスブロックバー P122

バスブロックバーで 音楽しよう！

監修：元 東京学芸大学 准教授 石上 則子 先生



活用例 1

バスブロックバーの特長である低音を生かした伴奏遊び

低学年のわらべうた遊びでは、体を動かしながら歌います。ここに伴奏を加えることで、その遊びが音楽的に高まります。歌（言葉、リズム、旋律）・動き（拍の流れ、フレーズ）・伴奏（拍の流れ、低音のリズム、旋律、音階）が一体となる表現は、子どもたちにとって豊かな音楽活動になります。低～中学年では、繰り返す低音の旋律（オスティナート伴奏）として、また合奏の低音部として生かすことができます。高学年では、ヘ音記号を楽譜上で学習する時やそれを生かして低音を合奏に加えるなどに活用できます。



〔例〕わらべうた「なべなべそこぬけ」に伴奏を加える

歌 な べ な べ そ こ ぬ け そ こ が ぬ け た ら か え り ま し ょ

ラ ソ ラ ソ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ シ シ ラ ラ ラ ソ ラ

伴奏

ラ ミ ミ ラ ラ ミ ミ ラ ラ ミ ミ ラ ラ ミ ミ ラ



活用例 2

即興的なリズムアンサンブル

活動の流れ

- 1 まず1番低い音に使う1音を選びます。
- 2 最初に選んだ1音に合う音を2音選びましょう。
- 3 1番低い音の人は同じリズムを繰り返して演奏します。
上の2音の人は1番低い音のリズムに合わせて演奏します。
交互に演奏して音で会話したり、一緒に演奏してみましょう。
反復する回数を決めて演奏しても良いでしょう。
- 4 先生か、1番低い音の演奏者が、終わりの合図をします。

〔例〕「レ」「ファ」「ラ」のバスブロックバーを使用する。

2小節で交代

ファ

ラ

同じリズムをくりかえす

レ

ザイロホーン活用例

ザイロホーン P116～



ザイロホーンで

わらべうたの伴奏遊びを楽しもう！

監修：神戸市音楽教諭 西沢 久実 先生（『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』専門的作業等協力者）

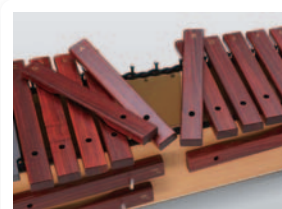
子どもたちは、友達と一緒に遊びながらわらべうたを歌う活動を通して、自然に我が国や郷土の音楽のもつ雰囲気や表情などに親しんでいます。伴奏遊びでは、わらべうたに伴奏をつける活動を通して、我が国の音階などの伝統的な音感覚を養ったり、我が国の音楽らしさを感じられる旋律づくりをするための素地をつくったりしていきます。ここでは「なべなべそこぬけ」を教材に、ザイロホーンの特長を活かした伴奏遊びを紹介します。

なべなべそこぬけ



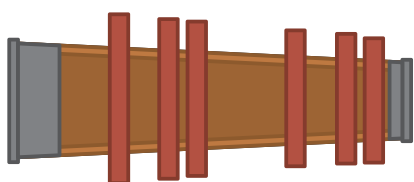
ザイロホーンの特長

- 必要な音だけを並べられるので、誰もが取り組みやすい。
- 持ち運びがしやすい大きさなので、多様な学習隊形の工夫ができる。
- 音色が良く音量も適度なので、クラス全体の中でのグループ学習の環境が作りやすい。

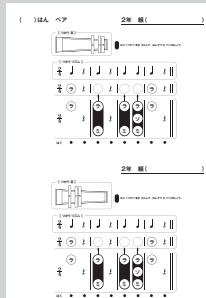


準備

- ① ザイロホーンは4人で1台、マレットは1台につき2組の数を用意します。
- ② 「ミ・ソ・ラ」以外の音板は外しておきます。
低音側/高音側の「ミ・ソ・ラ」がそれぞれ残ります。



- ③ ワークシートをペア分用意しておきます。



ワークシートのデータは、スズキwebサイトの本活用例掲載ページよりダウンロードしてご使用いただけます。



活動の流れ

スズキWEBサイトでは各ステップに挿絵を用いてご紹介しております。あわせてご参照ください。

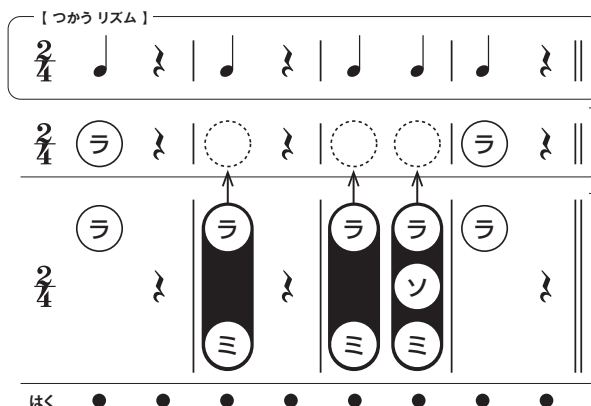
① 伴奏遊びのルールについて説明します。

ルール

使う音とリズムは、次の通りです。音を選んで、伴奏をつくっていきましょう。

使う音 ミ・ソ・ラ

リズム



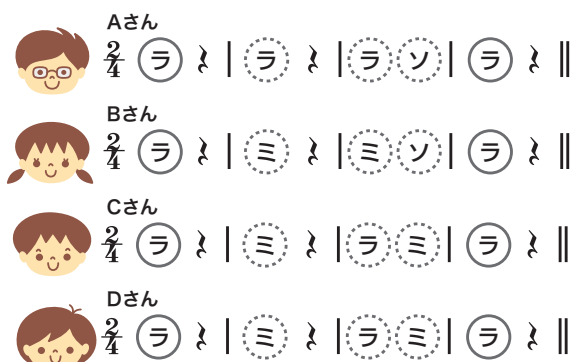
② 全員で、「使うリズム」を手で打って確認します。

③ 1人の児童が、実際に音に出しながら伴奏遊びの例題を発表します。クラス全員が、伴奏遊びのルールを確認します。

④ 2人1組のペアになり、2つのペアが1台の楽器を演奏するようにします。ペアで相談して、低音側/高音側のどちらの3音を担当するか決めるようにします。

⑤ グループに分かれて伴奏をつくります。順番に1人ずつ、実際に音に出して確かめながら、音を選んでいきます。

6 音が決ったら、ペア毎に1枚のワークシートに書き込みます。2人で1枚のワークシートに書き込むと音の違いを見比べることができます。また、視覚的な支援により、話し合いも進みやすくなります。



⑦ いくつかのペアが発表します。各ペアで、1人ずつ演奏するようにします。

8 2人同時に演奏することを伝えます。演奏の前に2人同時に演奏すると、どんな風に聴こえるかを予想する場を設定します。グループ学習において、わらべうたにに使われる音の重なりを感じ取っている児童は、「とけあう」等とつぶやくことでしょう。

9 ⑧の音の重なりを感じた後、再度グループに分かれ、音のつなげ方を工夫するようにします。変えたい音がある場合は、消しゴムで消さないで残しておく、思考の過程が記録されます。書き直した児童に理由をたずね、クラス全員でその思いを共有します。

10 前のペアが終わったら途切れないように次のペアへとつないでいきます。ザイロホーンを内側に向けて円になり、ペアで音を重ねて発表していきます。みんなの前で1人で演奏するのが難しい児童も、ペアであれば安心して演奏することができます。

① グループに分かれ、1組のペアが伴奏をして、他のペアがそれに合わせて歌います。1曲を最後まで歌い終わるには、2回繰り返して演奏することに気づくことができます。

⑫ 1組のペアが伴奏し、クラス全員で歌います。2回繰り返すことで伴奏になることを黒板などを使って、視覚的にも確認しましょう。



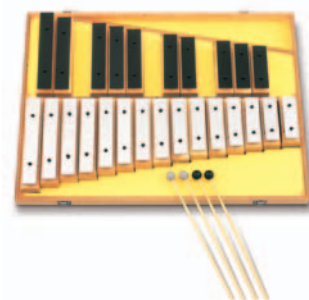
令和2年度版小学校音楽教科書「小学生の音楽2」（教育芸術社）P.61「ばんそうあそび」をもとにしています。

ミニグロッケン活用例

ミニグロッケン P121

サウンドブロック P123

「音楽づくり」を支えるアイテム



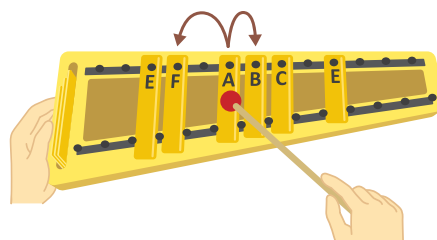
監修：日本女子大学 非常勤講師 中島 寿 先生

写真は、「さくらの音階で音楽をつくろう」という活動をしているところです。「さくら さくら」という日本古謡がありますが、この旋律は、「ミ・ファ・ラ・シ・ド・ミ(E・F・A・B・C・E)」という音階でできています。この音階を使って、ひとり一人が即興で4小節の旋律をつくる活動です。



対面している2人でメロディーをつなげたり重ねたりしやすいように、輪になって活動しています。二組が楽器を持っているのは、音楽がつながるようにするためです。一組が演奏し終わったら、すぐに、もう一組が演奏を始められます。その間に、終わった組は左の人に楽器を渡します。

演奏のルールは簡単、どの音から始めてもよいけれど、常に隣の音に進むようにします。リズムは、自由。たったこれだけです。しかし、この活動を鍵盤ハーモニカやリコーダーで行うのは、意外にむずかしい。そこで、活躍するのが、「ミニグロッケン」です。



POINT

常に隣の音に進みましょう



「グロッケン」、つまりは鉄琴なのですが、スタンドにのった大げさな鉄琴ではなく、片手の上にものせられるくらいのかawaiiいものです。とはいえ、おもちゃではなく、しっかりとした音程、良い響きの立派な楽器です。さらに、このグロッケンは、音板をはずすことができるので、必要な音だけを残し、あとははずしてしまうという、「音楽づくり」の学習には、ありがたい離れ業が可能です。何が都合よいかというと、たとえば、この活動のように特徴のある音階を使って旋律などの音楽づくりをするときには、その構成音だけを残しておけば、だれにでも「間違いのない」即興演奏ができるという点です。ルールさえ理解できれば、難しい知識や技能がなくても、自分の音楽をつくって演奏することができるわけです。

特徴ある音階はいろいろあります。たとえば、ド・ミ・ファ・ソ・シ・ド(C・E・F・G・B・C)にすると沖縄風音階、レからレ(D・E・F・G・A・B・C・D)までだとドリアの音階という具合です。

写真のグロッケンの後ろで演奏している楽器は「サウンドブロック」です。鉄琴を一音一音独立させて、共鳴ボックスの上に乗せたものです。この活動では、ミとラの二音を使い、低音部のオスティナート伴奏に使っています。どちらの楽器も、手で持てるので、音楽での会話や全員をつないだ音楽づくりの活動などに重宝します。

webサイトでは、旋律の例や活動の流れをご紹介します。ぜひ合わせてご覧ください。

バスウッドドラム活用例

バスウッドドラム P149

子どもの表現活動によりそう

バスウッドドラム

監修:筑波大学附属小学校 平野 次郎 先生

これからは1校に
1台バスウッド。
器楽でも、
音楽遊びでも、
音楽づくりでも!



活用例

1

低学年・音楽遊び

拍に合わせて 拍に流れを感じ取って、体で表現する

活動の流れ

- 1 全員で1つの円になる
- 2 拍に合わせて1人ずつ座る
- 3 速度を変化させて楽しむ
- 4 拍子を変化させて楽しむ



おすすめポイント

- ✓ フタをスライドさせると音色が変わる
- ✓ 強く叩いても優しい音色
- ✓ マレットでも、手の平でも表現できる
- ✓ キャスター付きのスタンド使用で子どもの近くに



〔例〕

まずは先生がバスウッドドラムで拍をきざみます。
パターンA.かB.のように1拍目の音の高さを
変えたとわかりやすくなります。



速さの目安

はやい ♪ =120
ふつう ♪ =80
ゆっくり ♪ =60

歌唱や器楽で「拍の流れにのれない
子がいて困っています」という先生の
声をよく聞きます。この活動ならば、
みんなで楽しく体を動かしながら、拍
の流れを感じとることができます。



活用例

2

即興表現の支えとして活用しよう

活動の流れ

- 1 基本のルールを確認する。
- 2 全員で1つの円になる。
- 3 先生は円の中心で拍を刻み、子どもたちは先生の拍に合わせて、順番に即興演奏をする。
- 4 先生のリズムパターンを変化させて楽しむ。



POINT

メロディオンやリコーダーで
の即興演奏の時に、子どもが
安心して表現することができ
るように、先生がバスウッド
ドラムで拍を刻みます。

〔例〕

メロディオンの場合

基本のルール

使う音 速度 ♪ =90くらい
リズム 自由に 拍子 4/4拍子 小節 1小節ずつ



〔例〕

リコーダーの場合

基本のルール

使う音 速度 ♪ =90~100くらい
リズム 自由に 拍子 4/4拍子 小節 1小節ずつ

